群像劇 第二話

「新田の完成（明治八年〜二十九年）」

神野新田物語

作・杉浦博人／演出・黒住昭人

かつて蒼い海に
黄金の海原を夢みる
わかき開拓者がいた

３世代に語り継ぐ「ひとすじの会」第３回公演

穂の国とよはし芸術劇場 **PLAT** 主ホール

平成30年

12月22日(土) Ⓐ11：00開演 Ⓑ16：00開演　**12月23日(日)** Ⓒ11：00開演 Ⓓ16：00開演

①S席　4,000円（当日4,500円）　②A席 大人 2,500円（当日3,000円）　③A席 小中高生 1,000円（当日1,200円）

チケット取扱い／カットハウス孫太朗、（公財）豊橋文化振興財団（穂の国とよはし芸術劇場プラット内）

※豊橋文化振興財団、穂の国とよはし芸術劇場プラットへの電話によるお問合せは、ご遠慮ください。※未就学児は入場できません。

主　催／ひとすじの会

後　　援／愛知県・豊橋市・豊川市・新城市・田原市・蒲郡市・岡崎市・各教育委員会・碧南市教育委員会・（公財）豊橋文化振興財団
神野新田土地改良区・牟呂用水土地改良区・豊橋市立小中学校校長会・豊橋市自治連合会・岩津天満宮・神富山圓龍寺・中日新聞・東愛知新聞
東日新聞・エフエム豊橋・豊橋ケーブルネットワーク株式会社［ティーズ］

ええじゃないか豊橋

チケット予約受付中。発売は5月1日から！

チケット予約申込書　※S席は1階席、A席は1階の1部と2階席となります。　申込み日 平成30年（　　）月（　　）日　No.

公　演　日	時間	①Ｓ　席	② A席 大人	③A席小中高生
12月22日(土) Ⓐ11：00開演	Ⓐ	枚	枚	枚
Ⓑ16：00開演	Ⓑ	枚	枚	枚
12月23日(日) Ⓒ11：00開演	Ⓒ	枚	枚	枚
Ⓓ16：00開演	Ⓓ	枚	枚	枚

連　絡　先
ふりがな 氏 名
住所
携帯
FAX

※申込み受付け順に指定席を決定します。予約日の変更は可能です。

チケット予約 お申込み　カットハウス「孫太朗」 Tel/Fax 0532-55-5610　E-mail SoNMaGo@softbank.ne.jp

群像劇「神野新田物語」の人々をご紹介します

神野金平　翁

わたしは江戸時代の尾張藩海西郡江西村の庄屋で神野金平と申す者でございます。

このたび息子の神野金之助が山口の毛利祥久様が手がけられた吉田の大新田を買い取り開拓する事業を始めようとしています。金之助はこの新田開発を勝算ありと考えているようですが、わたしはそうは思いません。毛利様も断念されたほどの難事業。あのような海を手に入れて米がとれる田んぼにするなど、夢のまた夢と言わざるをえません。

とはいえ金之助が大志をもって必ずやり遂げるというのなら、わたしも自分の最後の仕事としてこれを全うする覚悟です。　（金平）

神野金之助　by とよ

わたくしは毛利新田を買取り干拓工事を始めた神野金之助の妻とよと申します。

夫の金之助はとても信心深く親孝行で何においても慎重にものごとを進める人です。ですから今回お父様の金平翁の反対を押し切って新田の買付けを決めたことにはとても驚きました。

でも夫が考え抜いて決意したことです。これが成功すればたくさんのお百姓さんが新田で働けるようになります。夫が金色に輝く美田を夢みるならわたくしも同じ夢をみようと思います。　（とよ）

服部長七　by ひさ

わたしは人造石を発明し明治22年に広島港を建設した服部長七の妻ひさです。

夫の長七は広島の工事でお世話になった神野様にはいつか必ず恩返ししたいと常づね口にしていました。ですから金之助様から新田工事の成否について相談を受けたときは本当にうれしそうでした。

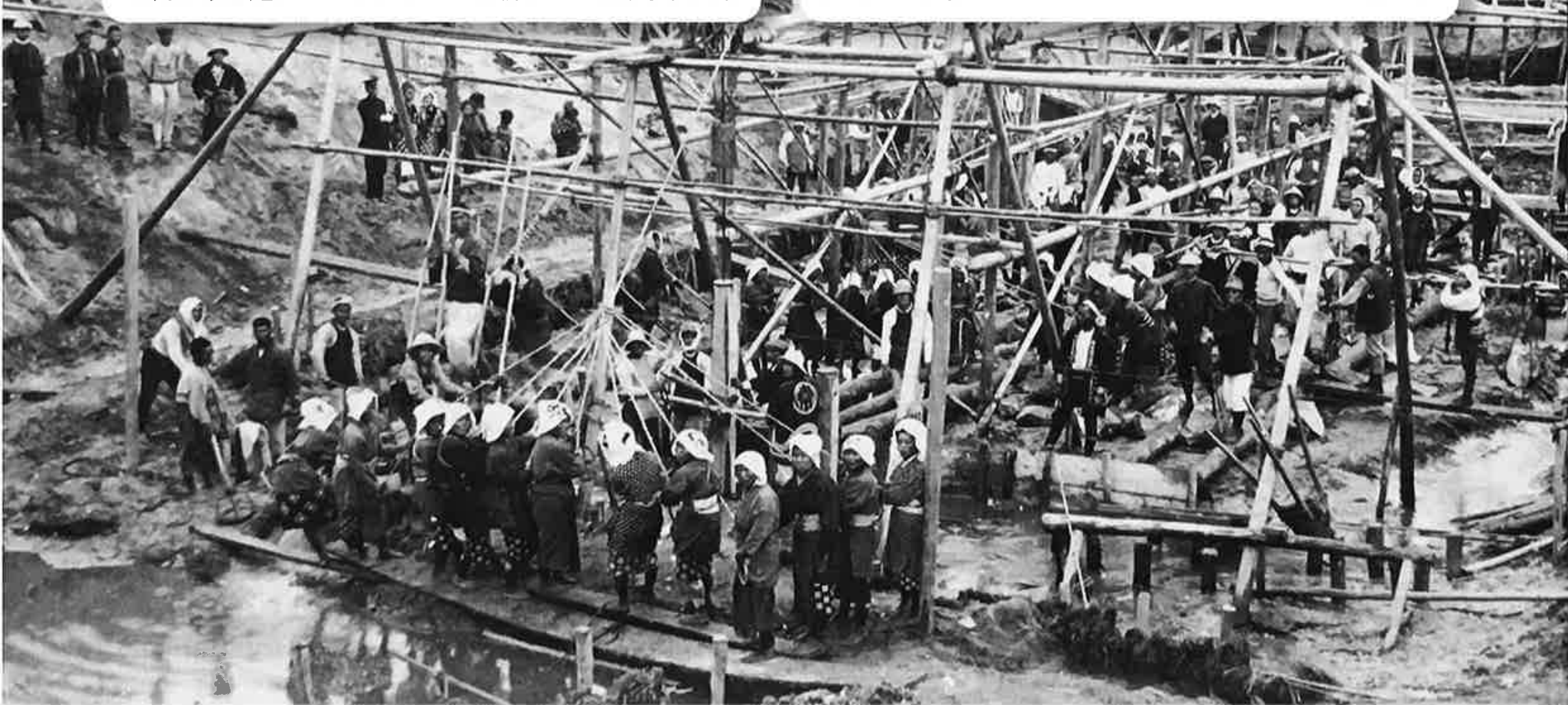
夫は人造石の築堤技術に絶対の自信をもっています。大堤防は人々の命を守る大切なもの。身命を賭して堤防を築こうとしている夫が困らぬようわたしも吉田の新田で共に働きます。　（ひさ）

岡本太一　by さよ

わたしは「服部組」長七親方の弟子岡本太一の幼馴染さよです。わたしと太一は服部組の仕事場を遊び場にして育ちました。

太一は無口でぶっきらぼうですが最近現場では若手として少しずつ仕事を任されるようになってきました。今度の工事でも親方は太一を一番に取り立てようと考えてくれているようです。期待に応えようと太一も張り切って人造石の試作に取りかかりました。が、どうも三郎さんとの折り合いが良くありません。わたしは今日も現場で何か事が起こることがないよう祈っています。（さよ）

神野三郎　by りき

わたしは神野金之助の三女りきです。三郎さんは７歳年上の従兄弟でお兄さんのような存在です。

三郎さんにはご自分で思い描く人生の設計図があるようで、遠くを見つめるとき、わたしはいつもその視線の先に何があるのか覗いてみたくなります。今年、三郎さんはお父様から突然新田開発の仕事を仰せつかりました。ご自身は予測をしていなかったことのようでしたが、お父様のお話に心を動かされたのでしょう。そのときから三郎さんの目が変わったように感じました。　（りき）